

2月5日、インターンシップで来村している国際ボランティア学生協会IVUSAの学生を講師に招き、関川小学校で特別授業が行われました。これは、IVUSAのさまざまな活動を参考に子どもたちにボランティアについて学んでもらおうと、4年生児童42人を対象に行われたもの。授業では、講師を務めた学生が村での活動の様子や東日本大震災被災地での災害救援また、バングラデシユでの清掃活動などについて画像を取り入れながら説明しました。

高橋礼人さん（下関）は「大学生の皆さんは、ごみ清掃などの活動を一生懸命しているんだと思いました。そして、バングラデシユは、自然環境をあまり気にせず生活しているということが分かりました。自分が大きくなったら災害時など、いろいろな手伝いをしてみたいです」と話していました。

また、バングラデシユの子どもたちへビデオレターを作成。全員で校歌を歌い、ベンガル語でメッセージを送りました。

関川小で 国際ボランティア学生協会 IVUSAによる「特別授業」



各地区の問題解決に つなげられるように ～荒川流域育成会議交流会～

2月16日、丸勝会館（下関）を会場に「荒川流域育成会議交流会」が開催されました。これは、荒川地区・神林地区・関川村の青少年育成会議の役員が集まり、情報交換を通して各地区の活動に役立てようと毎年行われているもので、当日は約30人が参加。

情報交換会では、3地区から活動報告などがあり、当村からは「村の人口の1割を青少年が占めている。その子どもたちをいかに守っていくかがポイント。大人が子どもたちに期待し、願いをもって接することを徹底していきたい」と今後の活動方針などについて説明しました。

また、青少年育成関川村民会議の伝信男会長（大島）は「3地区の交流を継続していくことが大切。お互いに情報を共有しながら、青少年のために行動していきたい」と話していました。



山口順子さん（辰田新） 法務大臣から感謝状

平成24年12月31日付で人権擁護委員を退任された山口順子さんに、このたび法務大臣から感謝状が贈られました。

山口さんは、平成18年1月1日から7年間にわたり人権擁護委員として活躍。この間、さまざまな人権相談や人権啓発活動に取り組んでこられました。人権啓発活動では、村上人権擁護委員協議会女性部で作った紙芝居と衣装で、管内の保育園や小学校などを訪問。子どもたちに思いやりの心の大切さを伝えてきました。

山口さんは「7年間お世話になりました。保育園、小学校、中学校の皆さんには毎年啓発活動で協力していただき感謝しています。今後はいじめをなくし、いつまでも友達と仲良くいられるような村であってほしいです」と話していました。

長い間、たいへんごろうさまでした。



雪原に浮かび上がる 1500個の雪灯ろう

～七ヶ谷冬の陣 雪ほたる～

冬の恒例イベントとなった「七ヶ谷冬の陣 雪ほたる」が、2月10日、安角ふれあい自然の家を会場に行われ、約1500個の雪灯ろうが回り一面を幻想的な世界へと変えました。主催はタランペクラブ（加藤克徳代表・鮎谷）。

年々、来場者が増えているイベントで、当日も、村内外から多くの人々が訪れ、暗闇の中浮かび上がる雪ほたるの姿に魅了されていました。新潟市からカップルで訪れたという男性は「FACEBOOKでイベントのことを知りました。出身が名古屋市で雪が降らない地域なので、雪の多さにびっくりしています。雪灯ろうの数と、幻想的な光は言葉にできません。来て良かった」と雪ほたるの姿に感動していました。

巨大どもんこに 子どもたちも大喜び！

第8回おいしい・どもんこ祭り

2月9日、大石ダム湖畔県民休養地を会場に「第8回おいしい・どもんこ祭り」が開催されました。主催は大石・山と川に親しむ会（高橋八男会長・大石）。

当日は、村内外から訪れた家族連れなどでにぎわい、会場に作られた直径10m、高さ7mの巨大どもんこに来場者も大喜び。

主催者の高橋会長は「雪は大変苦勞するものだけど、上手く活用することをみんなに知ってもらえたと思う。将来的に七ヶ谷地区の大きなまつりになってくれば」と期待を寄せ、新潟市から家族で訪れた広瀬和代さんは「3年連続で訪れています。孫が雪遊びを毎年楽しみにしていて、とても喜んでいる。来年もぜひ来たいです」と話していました。



関川小学校6年 篠田優花さん(下関)



全国なでしこサッカー大会で活躍！
春からはアルビレディースに入団

2月10日・11日に滋賀県で開催された「びわ湖カップ全国なでしこサッカー大会」に、FC五十嵐ガールズ（新潟市）のメンバーとして篠田優花さんが出場しました。

全国大会出場は2年連続で昨年4位という好成績を収め今回は優勝を目指して試合に臨みましたが、結果は32チーム中11位。それでも4ゴールを記録し、チームの中心選手として全試合で活躍しました。

優花さんは「昨年より結果は下だったけれど、全力でプレーできて良かった。4点取

ることができたのは満足です」と試合を振り返り、また、4月からアルビレックス新潟レディースU-18（18歳以下）への入団が決まっていることについて「練習についていくように頑張りたい。レギュラーの座をしっかりと奪い、将来なでしこジャパンに選ばれるような選手になりたい」と抱負を語ってくれました。

父親の浩一さんは「感謝の気持ち忘れず、自分の夢に向かって一歩一歩頑張ってほしい。enjoy football」とエールを送りました。